



工場内にあるオフィスでは受発注の対応や、資材購入などの業務が日々行われている。



工場建屋内部の様子。ストックヤードを囲むように、各階に生産ラインが設けられている。



フレーム製造工程の作業の様子。床にはゴミが無く、清潔に保たれている。



ミシンが並ぶ縫製現場は特に広いスペースが確保されている。扱うファブリックによっては、縫製が難しいものもあり熟練度が求められる工程の一つである。



東莞展示会場の隣にあるリーガルパレスホテル1階に、移転後の“慕思健康睡眠産業基地”の模型がある。

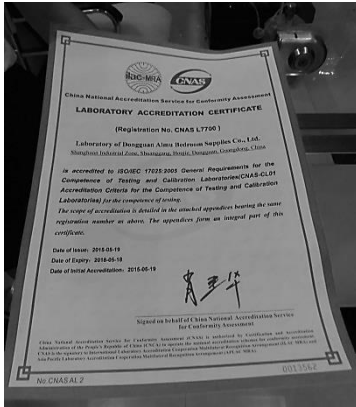
## 広大な規模を誇る生産拠点！

欧米のデザイナーを起用し、また欧米や中東にも店舗展開していることもあって『DeRUCCI』のベッドフレームは高いデザイン性を誇る。また、ベッドのもう一方の要であるマットレスも、部位によって硬さが選べるなど人間工学に基づいた商品開発が行われている。

工場があるのは中国広東省の東莞市厚街鎮で、毎年3月と9月に家具展示会が行われる会場からも車ですぐの距離にある。工場の敷地面積は8万㎡で、床面積は15万㎡にもなる。ブランドごとに建屋が分けられているのが特徴で、各建屋の1階にはスト

ックヤードとトラックヤードがあり、それを囲むように配置された各階の室内に生産ラインが設けられている。

現在は手作業の部分が多く、なかでもファブリックを用いたベッドフレーム多だけに縫製ラインの人員の多さと広さは圧巻である。また、手作業が多いとはいえ、熟練度に応じた工員の配置や流れるように進められる作業など、全ての工程が効率良く行われるような工夫が随所にされている。ベッドを主体に扱うだけあって、清掃を怠らず衛生面にも配慮している姿勢がうかがえた。



De Rucci の品質検査センターは CNAS 国家試験室検証にも合格。品質検査設備は 100 台近くもあり、検査項目は 70 項目以上に達する。左端の写真が CNAS の合格認定証。



完成品を一度組み立てて、異常がないかを目視で検品する。最新テクノロジーが集約された『T6』（左）と、『T7』（右）。この他、枕選びのための測定器もある。

## 品質管理を徹底！その品質は世界で認められる！！

『DeRUCCI』グループを展開する慕思寢室用品有限公司は品質管理も徹底している。工場内には中国政府が認可した高性能な検査用の施設があり、ここで製品に使用する素材の品質や成分は勿論、耐久性や耐光性など、あらゆる角度からの検査を実施して検査を合格したものしか使用していない。

また、完成したベッドフレームについても、一度組み立てて異常がないかを目視で確認したうえで、最終梱包するなど検品体制を強化している。

デザインだけでなく、良い物を作り提供する為の努力と投資を惜しまない姿勢が、結果的に世界中で高い評価を得るまでになった要因の一つであろう。

また一人一人に合った快適な寝具・マットレスを提供するために、『T6』『T7』といった、人間工学に基づいた最新テクノロジーも導入。『T6』は体重などのデータを自動で計測して、個々に合ったマットレスなどを提案するシステム。そして『T7』は体重

や体型などのデータを収集して、肩から太腿まで 8ヶ所の硬さを自動で調整。横向きや上向きなどの寝姿勢にも自動で対応する健康睡眠システム。かなりの高額ではあるが『T7』自体も、寝具として販売もしている。

このように世界的なデザイナーによるモダンでスタイリッシュなデザインのフレーム。全てにおいて徹底的にこだわった高い品質。そして人間工学に基づいた快適な寝具を提供する『DeRUCCI』は、東莞のインターチェンジ付近に工場を移転させる計画を進めている。新しい工場では自動化を進め、また睡眠研究所などの施設も併設する。完成すれば“慕思健康睡眠産業基地”として、世界中にさらなる快眠環境を提案していく。

世界基準の品質とデザインを背景に、日本市場でのブランド構築と拡販を目指していく日本デルッチ(株)にこれからも注目していきたい。